

管内経済情勢報告(平成24年1月)

管内経済は、持ち直しの動きがみられる

POINT

・個人消費は、家電販売額が前年を下回っているものの、大型小売店販売額、コンビニエンスストア販売額、新車販売台数及び中古車販売台数は前年を上回っている。
 ・観光は、入域観光客数が、修学旅行などの団体旅行や個人旅行が好調に推移していることなどから増加に転じている。
 ・雇用情勢は新規求人数が前年を上回っており、有効求人倍率は緩やかに上昇している。
 ・23年度の設備投資は前年度を下回る見込みであるほか、公共事業は前年を下回っているものの、住宅建設は前年を上回り、企業の景況感は「上昇」超に転じている。
 ・先行きに関しては、各種の政策効果などを背景に、景気の緩やかな持ち直し傾向が続くことが期待されるなかで、海外景気の下振れや為替の動向等を注視していく必要がある。

財務部

主要項目の動向

①

個人消費

前回との比較



持ち直しの動きがみられる

個人消費をみると、大型小売店販売額は、気温が高かったことによる衣料品などの不振があったものの、気温の低下とともに動きがみられ、年末商戦も好調であったことから、引き続き前年を上回っている。
 コンビニエンスストア販売額は、前年のタバコ価格改定後の落ち込みの反動増や観光が復調していることなどから前年を上回っている。

主要項目の動向

②

観光

前回との比較



持ち直しの動きがみられる

入域観光客数は、国内客は修学旅行などの団体旅行や個人旅行が好調に推移しているほか、外国客は世界のウチナーンチュ大会などにより前年を大幅に上回ったことから増加に転じている。
 ホテル客室稼働率は増加に転じ、客室単価は低下幅が縮小している。
 このように、観光は持ち直しの動きがみられる。

主要項目の動向

③

雇用情勢

前回との比較



厳しい状況が続くなか、緩やかな持ち直しの動きがみられる

一般職業紹介状況をみると、新規求人数が医療・福祉、卸売・小売業を中心に増加し前年を上回っているほか、新規求職者数が緊急人材育成支援事業(基金訓練)に代わる制度の新設により減少し前年を下回っていることなどから、有効求人倍率(季節調整値)は緩やかに上昇している。
 このように、雇用情勢は厳しい状況が続くなか、緩やかな持ち直しの動きがみられる。

総括判断

23年10-12月期(今回)

持ち直しの動きがみられる

前回との比較



23年7-9月期(前回)

緩やかな持ち直しの動きがみられる

その他の項目の動向

住宅建設

住宅建設を新設住宅着工戸数でみると、分譲住宅で前年を下回っているものの、持家、貸家で上回っていることから、全体では前年を上回っている。

設備投資

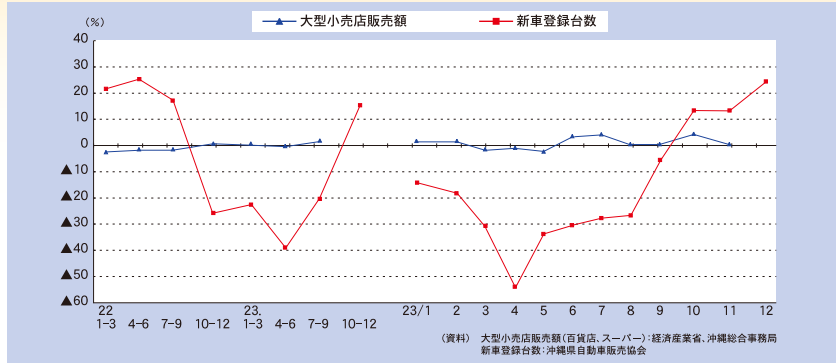
法人企業景気予測調査(23年10-12月期)でみると、全産業では前年度を3.3%下回る見込み(除く、石油・石炭・電気・ガス・水道では13.4%下回る見込み)となっている。

公共事業

公共事業の動向を公共工事単価保証請負額累計でみると、前年を下回っている。

仕事の窓

◎大型小売店販売額、新車登録台数(前年比)

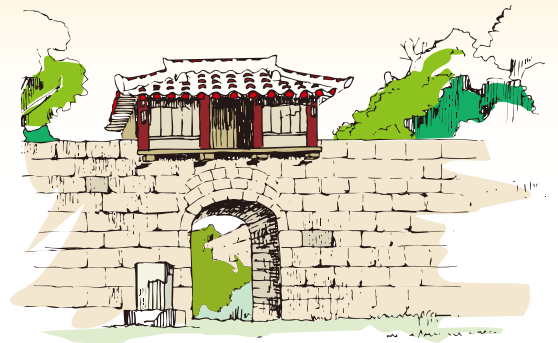
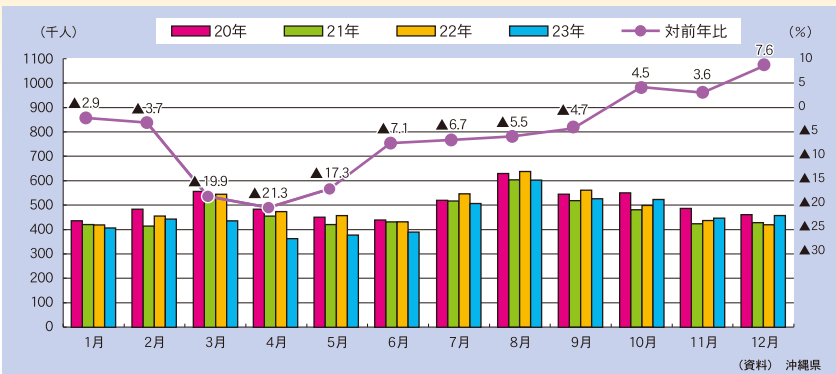


新車販売台数は、エコカー補助金終了の反動減が一巡したことにより前年を上回っている。中古車販売台数は、新車販売に動きがみられることから前年を上回っている。

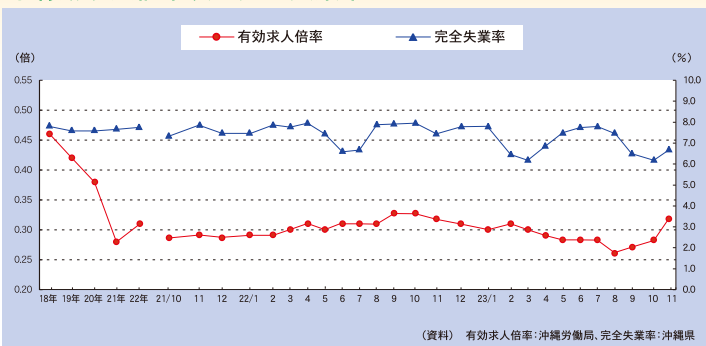
家電販売額は、地デジ完全移行に伴う駆け込み需要の反動減などから前年を下回っている。

このように、個人消費は持ち直しの動きがみられる。

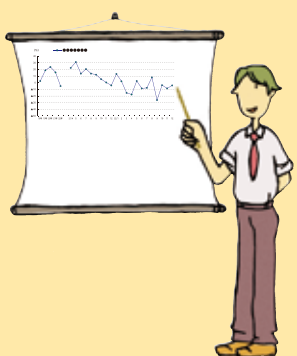
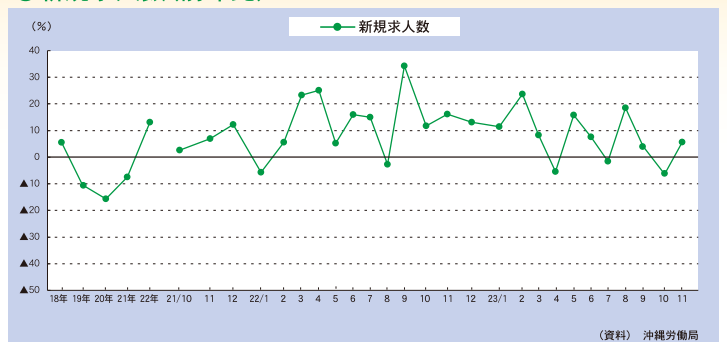
◎入域観光客数(前年比)



◎有効求人倍率及び完全失業率



◎新規求人数(前年比)



■企業の景況感

法人企業景気予測調査(23年10月12月期)でみると、製造業では「上昇」超から「上昇」と「下降」の均衡となっている。非製造業では、建設などで「上昇」とする企業が増加していることから「上昇」超に転じている。

この結果、全産業では、「上昇」超に転じている。

■企業収益

法人企業景気予測調査(23年10月12月期)でみると、23年度下期は、全産業で19.9%の減益見込みとなっている。

23年度通期は、全産業で10.4%の減益見込みとなっている。

■生産活動

製造業の生産活動は、金属製品や鉄鋼では、アルミ建材や棒鋼の出荷は前年を上回っているものの、窯業・土石では、生コンの出荷は前年を下回っている。

食料品では、食肉加工品が前年を上回っているものの、酒類の一部が前年を下回っており、全体では低調となっている。

このように、生産活動は弱含みで推移している。